



JAZZ の黄金時代

ブルーノート 1500 番台を中心に



担当 鈴木道郎

デューク・エリントン、ベニー・グッドマン、グレン・ミラー、カウント・ベイシーらにより盛んだったビッグ・バンドスタイルのスウィング・ジャズから 1940 年代に入るとチャーリー・パーカー、ディジー・ガレスピー、チャーリー・クリスチャン、セロニアス・モンクらによりソリストの即興演奏を主体とした「ビバップ」が生まれる。その後、50 年代はクール・ジャズ、ウエストコースト・ジャズ、ハード・バップ等の新たなスタイルが登場し、ジャズ界は黄金期を迎えた。

ドイツ系移民で熱心なジャズファンだった、アルフレッド・ライオンにより 1939 年にニューヨークで設立された「ブルーノート」は、カメラマンでアート・ディレクターのフランシス・ウルフ、モダン・ジャズの醍醐味を伝える骨太なサウンドを作った天才肌の録音技師ルディ・ヴァン・ゲルダー、優れたジャケット・デザインを生み出したリード・K・マイルズ等、有能なスタッフが集まり、ジャズ史に残る名盤を発表していく。



とりわけ、1500 番シリーズと呼ばれるカタログ・ナンバー1501 番から 1599 番までの 98 枚（1 枚欠番）のアルバム群は、ビバップからハード・バップに移行するニューヨークのジャズシーンをつぶさに記録し、ジャズ史に残る名盤の宝庫として知られる。

今回は、その中から明るく、力強く、メロディアスなハード・バップの特徴的な数曲を取り上げ紹介する。

■ BUD POWELL

1. Un Poco Loco 4:46

The Amazing Bud Powell vol.1 / バド・パウエル (Blue Note 1503)

Fats Navarro, trumpet #1-4; Sonny Rollins, tenor sax #1-4; Bud Powell, piano; Tommy Potter, bass; Roy Haynes, drums.

WOR Studios, NYC, August 9, 1949

「ウン・ポコ・ローコ」で始まる炎のセッションを記録した不滅のアルバム。不運の天才バド・パウエルがビ・バップの最重要ピアニストであることを端的に証明した 1 枚。



■ Art Blakey /アート・ブレイキー

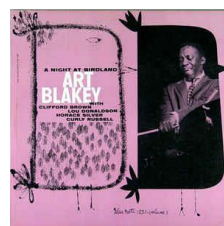
2. Mayreh 6:18

A Night At Birdland, Volume 1/ (Blue Note - 1521)

Clifford Brown, trumpet; Lou Donaldson, alto sax; Horace Silver, piano; Curly Russell, bass; Art Blakey, drums; Pee Wee

Marquette, announcer. "Birdland", NYC, 2nd set, February 21, 1954

ハード・バップ誕生のドキュメント。栄光のジャズ・メッセンジャーズ結成前夜、白熱のライブ。クリフォード・ブラウンの若く輝かしい演奏を聴く事が出来る。



■ Fabulous Fats Navarro/ファッツ・ナバロ

3. Our Delight 3:08

The Fabulous Fats Navarro, Volume 1 (Blue Note - 1531)

Fats Navarro, trumpet; Ernie Henry, alto sax; Charlie Rouse, tenor sax; Tadd Dameron, piano; Nelson Boyd, bass; Shadow Wilson, drums. "WOR Studios, NYC, September 26, 1947

夭逝した天才トランペット奏者ファッツ・ナヴァロの参加したタッド・ダメロン、マギー・ナヴァロ、バド・パウエルが3頭リーダーのセッションを収録した名作。



■ Horace Silver/ホレス・シルヴァー

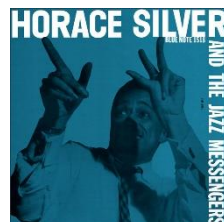
4. Room 608 5:22

Horace Silver And The Jazz Messengers (Blue Note - 1518)

Kenny Dorham, trumpet; Hank Mobley, tenor sax; Horace Silver, piano; Doug Watkins, bass; Art Blakey, drums.

"Van Gelder Studio, Hackensack, NJ, November 13, 1954

ビバップの中にファンキーな表現がされ始めていることと、シルヴァーの作曲の才を感じる事が出来る名盤。



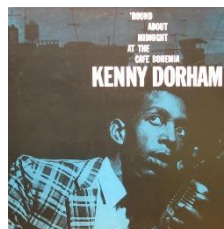
■ Kenny Dorham/ケニー・ドーハム

5. Autumn In New York 4:38

'Round About Midnight At The Cafe Bohemia (Blue Note - 1524)

Kenny Dorham, trumpet; J.R. Monterose, tenor sax; Bobby Timmons, piano; Kenny Burrell, guitar; Sam Jones, bass; Arthur Edgehill, drums. "Cafe Bohemia", NYC, 2nd set, May 31, 1956.

ドーハムの温和で哀愁を帯びたトランペット演奏が堪能できる。



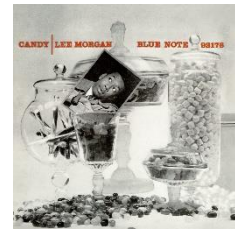
■ Lee Morgan/リー・モーガン

6. Candy 7:06

Candy (Blue Note・1590)

Lee Morgan, trumpet; Sonny Clark, piano; Doug Watkins, bass; Art Taylor, drums. "Van Gelder Studio, Hackensack, NJ, November 18, 1957

当時若干20歳の天才トランペッター、リー・モーガンがソニー・クラーク率いるピアノ・トリオをバックにしたアルバム。



■ Hank Mobley/ハンク・モブレイ

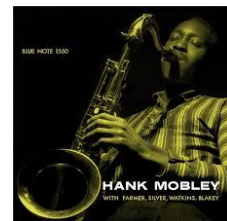
7. Wham And They're Off 7:42

Hank Mobley Quintet (Blue Note・1550)

Art Farmer, trumpet; Hank Mobley, tenor sax; Horace Silver, piano; Doug Watkins, bass; Art Blakey, drums.

"Van Gelder Studio, Hackensack, NJ, March 8, 1957

ジャズ・メッセンジャーズのメンバーから4人が集結し、『カフェ・ボヘミア』での名演ぶりをスタジオで再現。



■ John Coltrane/ジョン・コルトレーン

8. Moment's Notice 9:10

Blue Train (Blue Note・1577)

Lee Morgan, trumpet; Curtis Fuller, trombone; John Coltrane, tenor sax; Kenny Drew, piano; Paul Chambers, bass; "Philly" Joe Jones, drums. Van Gelder Studio, Hackensack, NJ, September 15, 1957

ジョン・コルトレーンがブルーノートに残した唯一のリーダー作。トロンボーンとトランペットを加えた3管編成のアンサンブルを率いて、伸び伸びとした寛いだ雰囲気演奏を繰り広げる名盤。



(計 48 分)

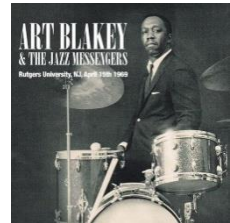
■ BUD POWELL

バド・パウエル（1924年～66年）は、ニューヨーク出身のジャズ・ピアニスト。ビバップスタイルの第一人者。幼時よりクラシック・ピアノを学び、15歳の時ジャズ・ピアニストとしてデビュー。新しいジャズであるビバップスタイルのピアノ奏法を確立し、セロニアス・モンクの示唆を受けジャズ史上屈指の天才ぶりを発揮した。1959年フランスに移住したが結核が悪化し、'62年帰米。自作の代表作に「クレオパトラの夢」「パリの大通り」等がある。



■ Art Blakey

アート・ブレイキー（1919年～90年）は、ピッツバーグ出身のジャズドラマー。ピアノ奏者を経て、ドラマーに転向し、1939年フレッチャー・ヘンダーソン楽団に入団。55年ジャズ・メッセンジャーズ結成。'59年「モーニン」が大ヒット。躍動的なリズムとビート、派手なロールと強烈なシンバル・ワークを特長とするドラミングは熱情あふれるもので特に長いドラム・ソロは聴衆をわかせた。常に優秀な若手奏者を発掘して楽団員に加え、前向きの姿勢で活躍を続ける。'61年初来日。他の作品に「サンジェルマンのブレイキー」（'58年）等。



■ Fats Navarro

ファッツ・ナバロ（1923年～50年）は、キー・ウェスト出身のジャズ演奏家。1941年にスヌーカム・ラッセル楽団に参加、その後、アンディ・カーク楽団を経て、ガレスピーの推薦で、ビリー・エクスタイン楽団に加入。ニューヨークに定住後は、ケニー・クラーク、コールマン・ホーキンスなどとレコーディングして人気を集めた。'48年にはライオネル・ハンプトン楽団、ベニー・グッドマン楽団などに参加して活躍するが、この頃より麻薬中毒、結核のために演奏活動も途絶えがちとなる。ハード・バップ・トランペッターの精神的支柱となり、代表作は「ザ・ファビュラス・ファッツ・ナバロ Vol. 1&2」など。



■ Horace Silver

ホレス・シルヴァー（1928年～14年）は、コネチカット州出身のジャズ・ピアニスト。特色のあるファンキーなプレイスタイルで知られ、ハード・バップの発展に寄与する。1950年にゲッツのクインテットに参加。'51年ニュー・ヨークに進出し、'52年に自己のデビュー作をアート・ブレイキーと共に録音した。'53年に「オパス・デ・ファンク」を発表し、作曲家としても注目された。'56年にドナルド・バード等と新しいクインテットを結成し、第1級の評価を得た。'74年から西海岸に移り第2の黄金期を迎えた。代表作に「ガイド・トゥ・グローイング・アップ」等がある。



■ Kenny Dorham

ケニー・ドーハム(1924年～72年)は、テキサス出身のジャズ・トランペット奏者。軍隊除隊後ディジー・ガレスピー、ライオネル・ハンプトン楽団などを経て、'48～50年チャーリー・パーカー5に参加。その後、'55年ジャズ・メッセンジャーズ創立メンバーとして参加し「カフェ・ボヘミアのジャズメッセンジャーズ」を録音した。'63～64年のジョー・ヘンダーソンと自己のグループを率いて活動し、「ウナ・マス」、「ページ・ワン」、「マイナーズ・ホリデイ」などの名作を残している。



■ Lee Morgan

リー・モーガン(1938年～72年)は、フィラデルフィア出身のトランペッター。56年にディジー・ガレスピー楽団に在籍し、その年に『Lee Morgan indeed!』でデビューし、その演奏からクリフォード・ブラウンの再来とも呼ばれた。60年頃はザ・ジャズメッセンジャーズにも所属し、トランペット奏者として、また一部の曲の作曲を手がけた。この時代の演奏では『Moanin'』などが知られている。63年の「The Sidewinder」は、当時のジャズ界では空前のヒット作であった。64～65年再びジャズ・メッセンジャーズで活動後、自己のグループを率いて活動を続けていたが、'72年ニューヨークのクラブ出演中に元愛人にピストルで撃たれて悲劇的な死を迎える。享年33歳。



■ Hank Mobley

ハंक・モブレイ(1930年～86年)は、テナー・サクソフォン奏者で作曲家。ハード・バップやソウル・ジャズのジャンルで活躍した。ニュージャージー州で演奏活動を始め、51年マックス・ローチに見いだされ、'53年まで共演、次いでディジー・ガレスピー、ホレス・シルバーと活動、その後ジャズ・メッセンジャーズで演奏、一躍人気を高め、'60～62年マイルス・デイビス5のテナー・マンを務める。'67～70年ヨーロッパでソロイストとして活躍、帰米後クインテットを結成して活動するが、病の為演奏活動から遠ざかる。'86年肺炎で死去、「ソウル・ステーション」、「ロール・コール」(Blue Note)等の作品がある。



■ John Coltrane

ジョン・コルトレーン(1926年～67年)はサクソ(テナーおよびソプラノ)奏者。19歳でプロ入りし、1955年マイルス・デイビスのグループに参加。60年から自身のグループを率いて活躍。ビートの細分化やモードを用いた奏法に創造の努力を続け、前衛ジャズの新たな道を開いて多くの奏者に圧倒的な影響を及ぼした。晩年の演奏は高い精神性を感じさせた。

